グループホームおあしす（認知症対応型共同生活介護事業所）

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　19　年　11　月　12　日

［評価実施概要］

事業所番号	1870400205
法人名	株式会社　オアシス
事業所名	グループホームおあしす
所在地	福井県小浜市雲浜1丁目8－8 （電話）　0770－53－5500

評価機関名	福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3－22		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年11月12日

［情報提供票より］　（　19 年　7 月　24 日　事業所記入）

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　17　年　2　月　28　日			
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人	
職員数	18　人	常勤　13 人、	非常勤　5 人、	常勤換算 14, 4

(2)建物概要

建物構造	鉄骨		造り
	3　階建ての	1　～　2	階部分

(3)利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	20,000　円
敷金	有　（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有　（　円） ○無		有りの場合償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	150　円
	または1日当たり		1,050	円

(4)利用者の概要　（　7　月　24　日　現在）

利用者数	17　名	男性	3　名	女性	14　名
要介護1	5		要介護2	8	
要介護3	4		要介護4	0	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均　85.0　歳	最低	67　歳	最高	100　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山手医院（内科）・藤田歯科医院（歯科）

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

本ホームは、きれいな海浜の近くにあり、民家に囲まれた静かな住宅街に位置している。近隣にはスーパー、保育園、協力医院等があり、自然にも恵まれた暮らしやすい環境の下、本ホームが入る3階建て建物は、1階に1ユニットと託児所および法人事務所、2階にもう1ユニットと小規模多機能事業所、3階に高齢者向け賃貸マンションという複合機能を有している。「家族愛」をユニット独自の理念に掲げ、その実現に向けて管理者を中心として、高い意識で入居者・家族の支援に努めている。ケアプラン作成には、入居者の生活が落ち着いた段階で本人にも参加してもらい、より主体性を尊重していく方法に改良されている。経過記録も工夫を凝らしながら、モニタリングしやすい内容にするため検討が重ねられている。地域密着型サービスの考えに基づいた実践も広がりつつあり、日常の外出に加えて、ふるさと訪問、農協祭り等一人ひとりの固有の楽しみを実現する外出支援に取り組んだり、ホーム内での交流を進めた結果、地域とのつながりができつつある状況であり、運営推進会議において更なる推進と定着化に向けた検討が期待される。重度化と看取りへの支援は、現在該当する人はいないということだが、将来を見据えて方針を定めてあり、入居者や家族の大きな安心に繋がるものと評価できる。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目:外部4） 評価を客観的な点検の機会として位置づけ、過去2回の評価結果からも理念の共有や地域との交流等で少しずつ段階的に改善が図られている。理念については、具体的な表現化に向けて検討が重ねられている段階であるが、地域密着型サービスとして地域と関わる上での心構えを明示し、職員の行動指針となり得る表現が盛り込まれることが望まれる。地域との交流は、その重要性を踏まえ、着実に実績を積み上げつつあり改善が図られている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目:外部4） これまでの外部評価結果を踏まえ、改善に向けて日々取り組んできているが、自己評価を含め管理者、計画作成担当者を中心とした取り組みとなっているため、今以上に職員の参画に軸足を移しながら、全体的な取り組みとなることが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目:外部4、5、6） 運営推進会議は小浜市担当課、民生委員、小規模多機能、グループホームの利用者の家族を委員として定期的に開かれている。　議題は事業所側から入居者状況、職員状況、活動内容に関する報告・説明が行なわれ、委員側から要望、質問、助言を受けながら意見交換し、様々な視点から検討を加えてもらい、それぞれの事業所運営に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目:外部7、8） 家族への報告・連絡では、面会時に、必ず伝えなくてはいけない内容をボードに掲示し、どの職員が対応しても伝えられるよう工夫が図られている。また、1か月の生活の様子を伝える生活連絡帳と金銭出納帳を請求書と一緒に送付するなど、常に状況報告を心がけたコミュニケーションが図られている。他にも家族から意見や要望等が言える場としては3者交流会、運営推進会議があり、双方の理解を深めながらホームの運営に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目:外部3） 地域との交流は、年々着実に広がっており、グループホームの努力の成果が少しずつ現れて来ている。引き続き、運営推進会議を効果的に機能させ、地域と連携しながら支援の輪と理解が広がっていくよう、さらなる努力が期待される。

2．評　価　結　果　（詳細）

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族愛」を理念としているが文章化できていない。抽象的な表現となっているため、現場職員の中で共通した理解となっておらず、自分の家族に対するのと同様の言葉遣い等で不適切な面があり、混乱を招くことがある。	○	より共通の理解ができるよう文章化するとともに、地域密着型サービスとして位置づけられたことを踏まえ、地域との交流・連携を基本にグループホームの役割を果たしていくことも明示していくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々のミーティング等で理念が共有されるよう努めており、職員は自分なりに理解し、実現に向けて実践している。管理者は、理念に反するような言動があればその都度正すようにしている。		
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢者の活動を支援するグループと連携し、近隣の高齢者との交流会やもちつきでの交流、地元小学生との踊りでの交流、近隣の保育園が主催する運動会への参加予定等があり、実践の広がりが見られる。季刊の広報紙は家族への配布に留まらず、区長の好意で班（9戸）に回覧してもらっている。	○	地域との良いつながりができつつあるため、さらに多くの近隣家庭に広報紙を回覧してもらえる働きかけを進めて、支援の輪や理解の広がりを期待したい。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を客観的な点検の機会として位置づけ、過去2回の評価結果からも理念の共有や地域との交流等で少しずつ段階的に改善が図られている。家族や外来者等への評価結果の公表も行なわれている。	○	今までの評価結果を踏まえ、日々の業務の中で職員が話し合い、改善への取り組みが進められているが、管理者、計画作成担当者を中心とした取り組みになっているため、今以上に職員の参画に軸足を移しながら、全体的な取り組みとなることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、サービスの向上や地域への理解に向けて委員にグループホームや入居者の生活の様子を報告するとともに、委員からの出された要望、意見、助言を運営に活かしている。	○	外部からの委員が市職員、民生委員に留まっていることから、さらに、地域住民への理解や市民からの意見、要望等を得るためにも幅広い方の参加を働きかけていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の構成委員に市から介護保険担当と健康増進担当の2名が入っているほか、市役所で行なわれる会議等に出席している。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に家族に伝える内容がボードを見れば分かるようにしてあるとともに、生活連絡帳、金銭出納帳を請求書と一緒に送付するなど家族への状況報告が常に行なわれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3者交流会（本人、家族、ホーム）の行事（年1回）の際に家族の方との話し合いの場をホーム側の働きかけで設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動について最小限に抑える努力をしているが、法人として複数事業を実施している関係上、職員の異動も多いため、入居者、家族に多少の不安を与えている面が見られる。	○	職員配置は入居者側のケアに大きく関わることなので、事業所の説明責任として、月毎の生活連絡帳等で職員の異動を知らせたり、異動が生じても利用者への影響を最小限に抑えるための職員間での連携が望まれる。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習委員会が研修の情報を提供して、職員の希望を聞きながら研修を受ける機会が確保されている。	○	緊急時の対応の勉強会や救急講習会の受講等が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、管理者を中心に研修等に参加して情報交換する機会が多い。	○	一般職員が参加可能な場合は、積極的に派遣し、交流することによって他のホームの状況や情報の共有が図られるとともに、モチベーションを高めたり、リフレッシュにつながることも期待できる。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーを通じての問い合わせが入居の際の基本的な事務手続きとなるが、入居条件の説明の後にホーム側から2名が出向いて、身体状況やコミニュケーション等の調査をしたり、見学を交えながら入居につなげている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のケアにおいても、入居者とのいろんな会話の中で、人生の先輩として、特に生活の知恵の面で学ぶことが多いと職員は認識している。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが取れる入居者には、日常的な会話の中で思いを把握し、日帰り旅行を支援した例もある。思いを把握しにくい入居者には、アセスメントや家族の意向を踏まえた支援を行っている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居した当初の介護計画は、計画作成担当者が2週間の様子観察をした上で具体的な支援内容を計画し、居室担当者とのすり合わせを行なった後に作成している。ケアプランの実施に係る検討事項ついては、月1回のユニットごとのカンファレンスにおいて、話し合いの場を持っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しにおいては、従来は家族のみを交えて話し合っていたが、入居者の生活に余裕ができた段階で、本人も交えてケアプランを作成していく方法へと移行しつつある。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能事業所の設備(交流スペース、風呂)を活用した交流を中心に、高齢者向け賃貸マンションや居宅介護支援事業所とが連携しながら、入居者・家族に対し、法人の多機能性を活かした支援がなされている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院による1か月に1回の往診のほか、看取りにおいても緊急医療支援が得られる体制がとられている。精神科や内科以外の専門科への受診は比較的症状が軽い場合、ホーム職員が付き添い支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護老人保健施設との協力関係ができているとともに、重度化した場合の対応に係る指針が示され、希望すれば看取りまで支援する体制ができている。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念と同様に、プライバシーの保持、個人の尊厳を損ねる言動があった時は、管理者または職員間同士で注意し合いながら修正し、入居者一人ひとりの尊厳に反することのないよう対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、地域行事への外出等本人の希望を聞き対応している。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、台拭き、片付け等を皆で役割分担して食事への関心を高めるようにし、入居者と職員が会話を交わしながら穏やかな雰囲気の中で、一緒に食事を楽しんでいる。献立は、入居者からの希望があればその都度取り入れていき、楽しみが持てるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日入浴できるようになっている。夜は8時まで入浴可能であり、一度に皆で入りたければ、併設の小規模多機能型居宅介護事業所のお風呂（複数が入浴可）にも入れるようになっている。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴から、生け花・編み物等の本人の好きなことや、洗濯も全自動式か2槽式かで慣れている洗濯機を使って自分でしてもらったり、掃除も声かけして、お願いしたりと個別支援を心がけた対応をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の仕入れのため毎日6名前後の入居者が買出しに出かけている。その際に、個別の買い物支援等も行っている。その他、日常的な散歩や季節のドライブ、農協祭り等に出かけている。農協祭りでは、ひいきにしているゲスト歌手の出演を観ることも楽しみの一つとなっている。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及び非難口の施錠は、夜間および入居者の危険が予測される時以外は、基本的にオープンとしている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定し、消防署の指導による避難訓練と消火器操作訓練及び自主訓練を行っている。緊急ホットラインは消防署にのみつながっており、他階に火災を知らせる放送設備の整備が不十分で拡声器対応となっている。	○	地震時の情報入手や安全確保等緊急的対応、近隣民家や地域との応援協定等の対策もとっていくことが望まれる。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、医師の助言により、全般的に「うす味」の食事を摂取してもらうよう心がけられている。水分制限のある入居者にはペットボトルを利用しながらの管理がなされていた。	○	法人内の栄養士による定期的なカロリー計算や献立の助言を受けられるような仕組みづくりも期待したい。
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは小動物や金魚を飼ったり、畳の間でくつろげるようにしてあったり、入居者が自分の家だと感じられるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢植えの花を居室に置き、熱心に世話をしている入居者の姿も見られるなど、入居者の居場所づくりを大切にしている。		

※ ■は、重点項目。

グループホームおあしす（1階せせらぎ）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としてつくられてはいるが、文章化されてないため管理者の中では統一した理解をもてているものの、現場職員にはいまひとつ浸透していない。	○	「家族愛」という理念を具体的に文章化しスタッフルームに常時目に付くように貼っておき、全職員で統一した理解が持てるようにしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解した上で日々の介護に取り組んだり会議で話合っている。	○	全職員が理念を念頭において関わっていけるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌などを家族と事業所所在地区に配り、生活の状況などを伝えてはいるが地域の中でという理念の理解を求めるような内容ではない。	○	特に地域の住民は、ＧＨというものがどんなものなのかを知らない人が多いため、まずは認知症についての理解をもってもらえるように広報誌で報じていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出退勤時や外出の際など挨拶を行っている。	○	挨拶以上の付き合いは出来ておらずホームについての会話などない為今後は取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている奉仕活動へ参加している。	○	老人会や地域行事にも参加できるようにしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	例えば介護勉強会などをしていけたらいいと話し合いはしているが、取り組みまではまだ出来ていない。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の評価について話し合い日々の業務に活かしている。ホーム内に季節を感じる飾りなど行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では書面で報告をしているが、それについての話し合いは事業所からの簡単な口頭説明のみになっている。	○	評価結果の中で出来ていないことを相談する形で、市役所や家族、民生委員の協力・助言を得ていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者（1名のみ)が市役所で行われる地域会議に出席しているが、その他は必要に応じて相談・助言を窓口で受けるくらいとなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修へ参加し学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんの事、言葉による虐待がないかも注意している。	○	身体拘束委員が設けてあり日々注意を行っているが、全職員が同じ理解をもてるように学ぶ機会を設けたい。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容を特に理解してもらえるよう、ゆっくりと時間をとって質疑応答できるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が随時生活の場で不満等は聞くようにしている。	○	管理者が定期的に入居者の自室にて不満等を聞き、記録に残し改善に努められるようにしたい(そのための記録用紙作成までは出来ている)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者一人ひとりの家族等へ便りを届け伝えている。	○	現在の便りを家族は満足されており今後も続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け訊くようにしている。その内容についてはすぐに反映させることが出来ている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などでは勿論意見や提案を聞くことができている。また、勤務時に1対1になったときなどそれとなく訊くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院時には担当職員が付き添えるように調整を行っている。	○	職員の急な休みなどで人員不足となり対応できない時のあり必要人員を確保したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としての事業拡大が急速だった為、法人内異動が多く入居者への配慮はなされていない。	○	運営者と管理者が、入居者にとってなじみの職員がどれだけ大切なのかを話し合っていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習普及センターの研修に勤務時間内でいけるようにしている。	○	県外の研修にも、職員の自己申告でいけるような雰囲気を作り上げて生きたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談したりすることはあるが主に電話が多く、訪問や勉強会はしていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上の悩みは随時訊くようにしている。悩みや困難に対し極力前向きに考えるように助言している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安な気持ちが見られた時にはさりげなく話しを聞き前向きに受け止めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って希望に添えるよう相談し努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番に必要とし希望されている支援を見極め対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員とは会議により方向性を話し合い開始時期・場面を決定し統一している。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話より習慣・歴史など教わったり調理方法・味付けなど教わり共に支えあっている。	○	調理以外の場面でも生活暦を探り個々に出来ることを増やしていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常的な問題があった場合は電話や手紙などで知らせ家族からのアドバイスをもらう。	○	今後も家族と良い関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族から話を聞き双方の思いを理解し良い関係が築けるように努めている。	○	職員では対応しきれない家族への思いを理解してもらい支援に結びつけたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時など本人の以前の暮らしの場や人と出会えるようにしている。	○	家族の希望もあるため今後も続けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し状況に応じた場面作りや声掛けを行っている。	○	お互いが助け合い支えあえる関係を築いていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先への訪問をしてもいいか、退去時に家族に許可を得て関係を断ち切らないようにしている。しかし、実際に退去後の付き合いが継続的には行えていない。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から思い・希望を探り全職員で話合い検討している。	○	日々の会話を聞き漏らすことなく注意して日々に活かしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報やサマリーから把握に努め活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の介護記録を記入し把握に努めている。	○	センター方式を活用するなどし把握に努めたい。
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスに全職員で話し合い本人、家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。	○	本人の本意を探りより良い介護計画を立てていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要時期に行うのはもちろんの事、変化や満足が得られない場合にも再カンファレンスを行い作成し直している。	○	今後も計画の見直しをしていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し全職員で活かしている。	○	介護記録以外にもセンター方式なども活用し日々に活かしていきたい。
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型居宅介護や介護つきマンションなどの、法人内の他事業所を視野に入れて支援している。しかし、今の所実際に活用したことはない。居宅事業所の助言を得ることは日常的にある。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア訪問や地域の保育園との交流を行っている。	○	保育園との交流を深めこちら側の一方通行にならないようにお互いが行き来できる関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域リハビリを活用しようとは思っているが、今のところ実際に活用したことはない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要がある場合のみ行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、その後ともに希望の医療機関を確認している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医師に指示、助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤している為、常に相談を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間の把握や退院後のケアなど相談を行い全職員と統一した方向で話し合っている。	○	現在入院中の方がおられ顔見知りの職員や入居者が随時見舞うことで退院への意欲を持ってもらえるように支援している。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の思いを聞き全職員で方針を話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は対象者がいない為行っておらず。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先に介護情報として文書を渡すようにしている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねる様な言葉掛けは行っていない。誤った発言、行動があった場合は職員間で注意しあい対応についても話合っている。	○	言葉掛けには今後も注意し個人の尊厳を守れるように取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	毎日の献立をわかるような言葉掛けより希望を引き出し決めている。一日の流れも特に決めておらず自らが入浴時間など決め納得出来る様支援している。	○	職員の問いかけの方法を解りやすいものにするように注意し、納得できるまで話を聞くように今後も取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースの大切さを全職員で理解し実現出来る様に努めている。	○	日々の業務に追われペースを乱しかねないが職員同士で注意し合えるようにしていきたい。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じて好みの衣類や髪型が出来る様に支援している。	○	訪問理容を利用しているため今後は本人のなじみの理容、美容店を利用していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成を一緒に行ったり買い物、調理も行う。	○	食事は誰もが楽しみに思うものなので季節感やお祝い事などには満足できるような献立を一緒に考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物については希望時に提供しているが、お酒は家族に相談後としている。たばこについては例がない。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の尿量や時間帯を把握、記録しさりげなく誘導、声掛けを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望の時間を聞き本人の能力に合わせた介助を行っている。	○	過剰な介助をしないように注意していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜眠れない事の多い方には日中活動を促し夜間良眠できるようにしている。希望時に休息出来る場所を確保している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物が得意な方や歌を唄うのが上手な方など多彩な為その時に応じた場面作りを行っている。	○	今後も得意な事を活かせる場面提供をしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金の大切さを理解してもらった上で金庫に預かり買い物時などに手渡し使えるようにしている。	○	レジでの支払いを本人にしてもらえるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時以外にも買い物、散歩などの声かけを行い日常的に行っている。	○	同じ入居者ばかりが外出することのないようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回、日帰り旅行や家族交流会などで機会を作り行っている。	○	行事としてだけではなく入居者の日々の会話から出掛けたい場所を探り計画したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム内の電話を使用したり玄関内エントランスの公衆電話を自由に使えるように支援している。	○	文字を書ける方には年賀状や手紙を書けるように支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には自室やリビングでゆっくり過ごせるように飲み物を出して気をくばっている。	○	訪問者の帰り際には必ず「また来たください」と声を掛けている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設け身体拘束防止について検討している。	○	活動が不定期な為、密な話合いがもてていない。今後は定期的に設けたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵が付いておらず、玄関も日中は施錠していない。	○	今後も施錠をせずに開放感のあるホームにしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はさり気なく入居者の様子を把握し夜間は3時間ごとの巡視を行っている。	○	必要以上の見守り、監視にならないように注意し入居者の安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	転落の恐れのある方にはベットを使用せず布団にしてもらう事や不穏状態になる方の近くには刃物を置かないなど日々注意をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルにもとずいた防止策を職員で話し合い一人ひとりに活かしている。	○	個人の状態にも変化がある為そのつど対応、注意し事故防止に努めたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルはあるが訓練は行えておらず。	○	マニュアルに沿った訓練を全職員で行い身につけたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力し避難訓練を行い、反省会を行っている。	○	今後も訓練は行い防災意識を高めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化などが、あった場合は家族への報告、説明を行いリスクについても理解してもらっている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い記録し変化を早急に見つけ対応している。	○	必要な場合には速やかな対応を全職員でしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後に必ず通院簿、カルテに記載し薬の変更や用法、用量について申し送っている。	○	飲み合わせや副作用について学んでいきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時にヤクルト、バナナなどを提供したり、主食を軟らかめにしている。水分補給もこまめに行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	さりげなく声掛けを行い一人ひとりに合った介助を行っている。	○	以前の生活習慣で朝、昼の食後に行わない方もいる為、無理強いはしないようにしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をつけ一人ひとりの把握を行い献立に	○	カロリーや栄養バランスには重点をおいておらず、今後は栄養士に相談するようにもしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルは作成されているが職員が把握しているかは確認がとれておらず。	○	全職員に感染症予防マニュアルを知らせ理解向上に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の鮮度の確認、調理器具の消毒を行っている。	○	冷蔵庫内の清掃をこまめにしていきたい。
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に木製の表札を掛け、周りには植物や花を置いて親しみやすさを出している。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、食事をする場所以外に、畳の間やソファーがあり、足を伸ばしたり、横になったりできるように工夫している。	○	殺風景になりがちなリビングを集いの場的な暖かい空間にしていきたい。
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみの間やソファーを利用できるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものや、使い慣れたものを置き、家族の写真などを飾ったりして工夫している。	○	一人ひとりのくつろぎの場として生活感のある空間にしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンの冷たい風に注意し、入居者に寒くないかなどこまめに確認して行っている。	○	窓をこまめに開け外気やにおいを感じられるようにしたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下、トイレや風呂には手すりが設置されている。	○	今後も手すりやすべり止めなどが必要と思う場所には設置したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がわからない方には、ドアに名前や目印になるものをつけている。トイレも同様にしている。	○	ドアの外側には目印があるが内側からもドアと解るような目印をつけたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏口より畑へ行き作業したり、玄関の花や植物に水をやったりしている。しかし満足のいく作物の収穫ができない。	○	入居者と共に収穫を喜びたい。

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

グループホームおあしす（2階そよかぜ）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としてつくられてはいるが、文章化されてないため管理者の中では統一した理解をもてているものの、現場職員にはいまひとつ浸透していない。	○	「家族愛」という理念を具体的に文章化しスタッフルームに常時目に付くように貼っておき、全職員で統一した理解が持てるようにしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現場職員が理念を意識して取り組めているかは定かではないが、結果としてそれに基づいた取り組みになるような状況が、日常的に行われている。	○	理念を念頭において、現場スタッフがよりそれに基づいた関わりをしていけるように理念の理解を浸透させたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌などを家族と事業所所在地区に配り、生活の状況などを伝えてはいるが地域の中でという理念の理解を求めるような内容ではない。	○	特に地域の住民は、ＧＨというものがどんなものなのかを知らない人が多いため、まずは認知症についての理解をもってもらえるように広報誌で報じていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所の行事に招待したり、散歩に行った途中などで近隣の人と世間話から始まって、植えてある花をプレゼントされたりという事はある。しかし、取り組みというと特別出来ていない。	○	定期的にホーム内でお茶会などをし、地域住民を招待するように運営者からは言われている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	踊りのボランティアを招いたり、図書館の催し物を見に行ったりすることはあるが、近隣地区行事への参加はあまり出来ていない。	○	地区の保育園へ訪問することがあり、そこの運動会などに今後参加していく予定をしている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	例えば介護勉強会などをしていけたらいいと話し合いはしているが、取り組みまではまだ出来ていない。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的な意見をもらう機会はなかなか無い為、その評価の下、改善に努めている。	○	評価内容から改善までが、どうしても運営者や管理者だけが理解して取り組んでしまう為、今後は全職員でそれを行っていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では書面で報告をしているが、それについての話し合いは事業所からの簡単な口頭説明のみになっている。	○	評価結果の中で出来ていないことを相談する形で、市役所や家族、民生委員の協力・助言を得ていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者（1名のみ)が市役所で行われる地域会議に出席しているが、その他は必要に応じて相談・助言を窓口で受けるくらいとなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	そういった研修には積極的に参加または参加するように促している。今年は、成年後見の研修に参加する予定があったが、職員の事情により欠席となった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に、言葉や身体拘束について防止に努めている。	○	身体拘束委員会の中で、全職員に啓発していけるようにしたい。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容を特に理解してもらえるよう、ゆっくりと時間をとって質疑応答できるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が随時生活の場で不満等は聞くようにしている。	○	管理者が定期的に入居者の自室にて不満等を聞き、記録に残し改善に努められるようにしたい(そのための記録用紙作成までは出来ている)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	それぞれの担当職員が生活状況記録をつけ、金銭出納帳を添えて月に1度家族へ送付している。職員の異動については報告していない。	○	広報誌にて職員の異動についても報告するよう検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け訊くようにしている。その内容についてはすぐに反映させることが出来ている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などでは勿論意見や提案を聞くことができている。また、勤務時に1対1になったときなどそれとなく訊くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間が限定されていないパートを一人確保し、必要な時間に組み込めるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としての事業拡大が急速だった為、法人内異動が多く入居者への配慮はなされていない。	○	運営者と管理者が、入居者にとってなじみの職員がどれだけ大切なのかを話し合っていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習普及センターの研修に勤務時間内でいけるようにしている。	○	県外の研修にも、職員の自己申告でいけるような雰囲気を作り上げていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談したりすることはあるが主に電話が多く、訪問や勉強会はしていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上の悩みは随時訊くようにしている。悩みや困難に対し極力前向きに考えるように助言している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に自宅または病院などに訪問し話を聴くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族単独で話を聴く場合は、事業所の相談室でゆっくり話を訊くようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聴き、グループホームの機能が適していないと思われるときは他のサービス利用を提案することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に工夫はされていない。	○	現実的ではないが、入居お試し期間のようなことが出来れば入居するお年寄りにとってはいいのではないかと思っている。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を教えてもらったり、時には職員が悩み事など相談する場面もある。	○	もっと過去の生活暦から、本人の得意な技術などが生活で活かされるようにしたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に協力してほしいことなどがある場合、面会時に話をし協力してもらうようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	大体の関係は理解しているが、深く立ち入ったところまでは聴くようなことはできていない。	○	入居者が家族に対しての不満等を言った場合、家族が傷つかないように伝えていけるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会を積極的に受け入れたり、なじみの床屋などには送迎したり訪問してもらったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクレーションから生活上の洗濯物たたみや茶碗拭きなど、一緒に出来ることは極力共同で行うようにしている。しかし、相性の悪い入居者同士の対策については不十分である。	○	相性の悪い入居者同士の関係については、少なくともそれが周りに連鎖して一人対集団といういじめにならないようにしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先への訪問をしてもいいか、退去時に家族に許可を得て関係を断ち切らないようにしている。しかし、実際に退去後の付き合いが継続的には行えていない。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を明確に言語化できる場合は随時訊くようにし、出来ない場合は過去の生活暦や、家族の意見、本人の表情などから本人にとって良いように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族に聞き記録に残している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は本人の生活リズムや心身状態を把握して介護するようにしている。しかし、有する力の活用については、できることまで職員が手を出してしまうことが良くある。	○	入居者が何が出来て何が出来ないのかを把握し、できる事はしてもらえるようにすることを徹底していきたい。
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それに努めようとはしているが、特に家族の意見については十分に訊けていない。	○	家族に介護計画の重要性を理解してもらう為に、まずは計画を実践したことによる成果を明確に伝えていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しや状態に応じた計画を行うようにしている。しかし、面会時に家族の最終確認を得ている為、家族の事情で確認が遅れてしまうことがある。	○	諸事情により面会にこれない場合、郵送などの手段で家族への確認を早期にとるようにしたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記録し、介護計画にかかわるものについては青で囲う方法を取って参考にしている。しかし、記録が日によって少なかったり、青で囲うべきものがされてないことが多い。	○	記録すべき項目を明確にし、介護計画に関わる記録の方法を見直していきたい(原案は出来ている)
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型居宅介護や介護つきマンションなどの、法人内の他事業所を視野に入れて支援している。しかし、今の所実際に活用したことはない。居宅事業所の助言を得ることは日常的にある。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	踊りのボランティアを招いたり、子供好きな入居者が保育園に訪問することがある。	○	保育園以外にも小･中･高と教育機関との交流機会は作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域リハビリを活用し、年1回理学療法士に訪問指導してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、地域包括支援センターとは、運営推進会議で状況報告する程度となっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を主治医にすると、月1回の往診が受けられるということは説明するが本人･家族の意向に従っている。総合的な診療が必要な場合は、総合病院のほうが良いということを進言している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医で今知りえている医師は市外にしかいないため日常的な関わりは特にない。	○	市内でそういった医師がいるか調べていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ﾕﾆｯﾄごとに看護師または準看護師が配置されており、随時相談･助言が出来ている。地域の看護職とは受診時や入院時くらいしかそういった機会は無い。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会時などに情報交換をするようにしている。そうした場合に備えての連携は得にされていない。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に重度化した場合についての対応マニュアルが記載されており、そういったことが予測される段階で家族に連絡し意向を訊くようにしている。しかし、全ての職員が対応マニュアルを把握しているかは管理者は確認したことがない。	○	マニュアルを全職員が把握できているようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療的な支援が必要となった場合以外は対応するようにしているが、食事の全介助などが今後増えてきたときの対応の検討はまだされていない。	○	複数の入居者が重度化したときを想定し、その時どこまで対応しきれるかを総合的に検討しておきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先に介護情報として文書を渡すようにしている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	例えば、広報誌に載せる写真などについては本人や家族の了承を得て載せている。言葉掛けや対応については配慮できている職員もいれば、出来ていない職員もいる。	○	配慮できていない職員には、その重要性を理解してもらえるよう根気良く説明していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	筆談をつかったり、選択性のあるものは実際にそれを見せて決定権を行使してもらっている。しかし、特に介護の内容についてはどうしても職員本位になりがちである。	○	結果としてほぼ入居者の為になると思われることでも、本人に選択権と決定権があることを念頭におき、もっと本人と会話を持って何事も決めていく気持ちを職員は持っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切には考えているが、無意識のうちに職員の都合が優先されていることが多い。	○	管理者はﾕﾆｯﾄ内の決まりごとなどが、入居者の生活に支障を及ぼすような職員本位のものでないか配慮していきたい。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望むようにしている。店に行くこともあればホームに出張してもらうこともある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事つくりを一緒にしたり、下膳なども各自で行うようにしてもらっている。しかし、献立については好みを反映させてはいるが、開設当初のように入居者と一緒に考えるような形では今は行われていない。	○	献立つくりに参加できる入居者には参加してもらえるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつなどは買い物時などに好きなものを買ってもらえている。酒・たばこは実例がないが支障がない限り容認する方針でいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導をしたり、夜間のみオムツをしたりして安易にオムツの使用を始めたりしないようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームで決まっている20:00までの範囲内なら希望に応じて入浴してもらえている。午前中に入ることもあれば夕食後に入ることもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度の昼寝は本人の意思に任せ、夜間不眠で辛そうにしているときなどは休息を勧めている。夜間の不眠時や昼寝をする場所も和室だったりソファだったりと希望にあわせている。和室で夜勤者と床を並べることもある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や活け花、編み物など得意なことや好きなことをしり、ホーム内でしてもらえるようにしている。	○	活け花や俳句会など好きな人がいるが、回数が計画より少ないのでもっと回数を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて家族の了解を得るが、所持を希望する場合はしてもらえている。希望がない場合は金庫に預かり、買い物に行くときなどに使えるようにしている。	○	レジでの金銭の支払いとつりの受け取りを、本人にしてもらうことが職員によっては出来ていない為、能力のある人には統一してしてもらえるようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望がある場合は応じるようにしている。また、外出時には他の入居者の希望も聞き、なるべく外出できるように促している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に日帰り旅行は1回している。また、好きな歌手のコンサートや近隣の温泉などには家族の協力で行くことができている入居者もいる。過去1泊旅行の計画を希望により立てたが、急な入院者が出て計画倒れになったきりである。	○	1泊旅行の実行をしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらえている。0番を最初に押さないとかからないため、職員がダイヤルを手伝っている。手紙についても希望時は代筆したり、必要物品を一緒に買いに行ったりして応じている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、なるべく落ち着いて話せるように自室へ案内するようにし、お茶を出して歓迎していることを態度で示すようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時の対応以外拘束はしてはいけないことは知っているが、その細かい内容や特に言葉による拘束についての認識は殆ど出来ていない。	○	身体拘束委員会の委員がまずその理解をし、全職員に浸透させていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の希望や身体の危険が予測される場合以外は掛けないようにしている。その場合は必ず本人と家族の了解を得るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在をさりげなく把握し、監視されているような気持ちを与えないように気をつけて安全に配慮している。しかし、時々所在の把握を意識するあまり、過度の行先の確認をしたりしてしまっている。	○	入居者が席を立つと「どこ行くの？」と間髪いれずに聞くようなことが職員に時々見られるため、ゆっくり動向を見守るように全職員で統一したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に排除するのではなく、生活の質を落とさないように、工夫して個々に対する対策し残すようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については年1回の総合訓練で消防署の指示助言を得ている。転倒しやすい入居者には見守りを必ずし、薬については個別に一日分を朝・昼・夕と袋わけしている。ただし、リスクマネジメントについては研修などにも行けておらず全職員が学習不足である。	○	管理者はリスクマネジメントについての学習を、研修なども利用して今後全職員に啓発していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルにはあるが、それに要する技術や訓練は定期的に行えていない。	○	消防署の協力を得て、定期的な訓練をホームまたは消防署などで行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については訓練を行えているが、地震や水害については訓練すら行えていない。地域の協力を得られるような働きかけも出来ていない。	○	地震・水害についての訓練も行っていきたい。また、今年の火災総合訓練で地域の協力を得られるように、消防署から指示を受けた為実現させたい（民生委員にはその実現に向けての協力を受諾している）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	話し合うことが出来ている。例えば辛いもの好きの入居者の、食事の塩分についてが多い。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り用紙に記載し、全職員が認識できるようにしている。しかし、その内容をきちんと出勤時に見ているかどうかを、管理者が職員に確認することが日常的に出来ていない。	○	管理者は、情報の大切さを職員に説明し情報共有の徹底に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しい薬については常備してある本で調べるようにしている。また、症状と副作用の関係が考えられる場合、看護師または管理者を通じて医師に報告するようにしている。しかし管理者は、薬の内容を職員全員が把握しているか改めて確認したことはない。	○	薬の副作用なども記載した一覧表を作っていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動については理解し取り組めている。しかし、食事についてはその配慮が薄い。	○	乳製品の嫌いな入居者が多いため、ティータイムのコーヒーやココアに牛乳を混ぜるなど工夫をしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後はしてもらっている。しかし、朝や特に昼は、過去の生活で習慣のない入居者が多く、促しはするが無理にはしてもらっていない。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表をつけており、支障のない限り量も本人の希望に応じている。水分量の決まっている入居者には、別のメモリのある入れ物に入った水とお茶で、きちんと量って限度を超えないようにしている。	○	栄養士が法人内に勤務している為、栄養バランスについて助言を定期的に受けれるようにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成してある。しかし、管理者はそれを職員がどれだけ把握しているかを、あらためて確認することは出来ていない。	○	管理者は、全職員に感染予防マニュアルを配布しその理解の徹底に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物をする際、賞味期限をしっかりと見て買うようにしている。また、使用する際も改めて期限を確認するようにしている。お絞りは毎食後に消毒している。しかし、まな板や包丁の消毒は出来ていない。	○	まな板や包丁も定期的に消毒していきたい。また、肉・魚用のまな板と包丁も分別していきたい。
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いて明るい雰囲気を出している。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に花や創作物を展示している。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さいテレビのある和室があり、窓際にソファを置いている。	○	和室で昼寝がしやすいようにカーテンを設置したい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品やタンス、または仏壇などを持ち込んで使ってもらえている。好きな歌手のポスターを貼るなどの支援もしている。		
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気し、冷房・ドライ・暖房を必要に応じて使い温度調整をしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを追加したり、物品庫の扉に手すりが付いていて危険が予測されたため、簡単な鍵をつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレに目印をつけたり、湯冷まし用のきゅうすにも、それとわかるように目印をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	希望により洗濯物が干しやすいように物品購入の支援などをしている。エレベーター内には入居者の活動写真が貼ってあり、1Fの玄関には花が植えてある。しかし、裏の畑が雑草が多くなりがちで思うように作物や花が育っていない。	○	入居者と一緒に畑で花や作物を育てていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）